

6. 気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島と並んで温暖な地方である。しかし房総台地は内陸性気候で寒暖差はやや大きく、反対に太平洋及び内陸沿岸は海洋性の気候で比較的暖かい。

雨量は地域により差はあるが、房総丘陵の南側が多く、北西部は少ない。特に内湾沿岸は本県でも最も雨量の少ない地域である。

平成5年の気候概況は次のとおりである。

冬は7年連続の暖冬で始まり、春は晴の日が多かったが、寒気が入り低温となった。夏は太平洋高気圧の張り出しが弱く、また、オホーツク海高気圧が強かったため日本の南岸に前線が停滞することが多く低温・多雨・寡照となった。秋は秋雨前線が活発となり、曇や雨の日が多く低温が続いた。このため、県内の水稻等農作物に大きな被害が発生した。

